

電波暗室を整備

ものづくり企業支援

県は、盛岡市北飯岡の県工業技術センター敷地内に県内で初めて国際規格に対応した10メガ電波暗室を備えた「ものづくりイノベーションセンター（仮称）」を整備する。着工は8月で、2018年3月の完成を予定している。開放型研究施設としても利用可能で、県内企業の次世代ものづくりの技術支援体制の強化を図る。

県工業技術センター敷地内に整備される「ものづくりイノベーションセンター（仮称）」の完成イメージ

県が推進する産業競争力強化支援拠点整備計画に基づき、新たに整備するものづくりイノベーションセンターは鉄骨平屋建てで、床面積約1760平方メートル。総事業費は12億4000万円で、半分は国の地方創生拠点整備交付金を利用する。自動車や半導体などの本県中核産業分野や医療機器、航空機産業など、ものづくり成長分野への進出に向け、技術支援体制を強化する。電波暗室は電子機器や部品が放つ電磁波の量を測定するほか、他の機器に与える影響などを調べ、県内では主に医療機器や電気自動車分野での利用が見込まれている。これまで県内には3メガ法の電波暗室のみで、国際規格に対応した10メガ法の電波暗室はなく、県内の医療機器を製造する企業などは関東で測定を行っていた。今回新設されることを受け、県工業技術センターでは製品の製造コスト削減や開発スピードアップにつながることを期待している。このほか、IOT（モノ

ノのインターネット）・ロボット開発機能や3D設計など3次元デジタルものづくり技術を活用した設計、試作などの機能を備えるとともに、県内企業が利用可能な開放型研究施設とする。

同センターの富手壮一企画支援部長は「10メガ電波暗室は多くの県内企業から要望があったので、ぜひ活用してもらいたい。県内企業の新分野進出と競争力強化に向けた支援につなげていきたい」としている。

前沢の工場に
フアンド投資
いわぎん事業
創造キャピタル
岩手銀行などがベンチャー企業へ投資を行う、

いわぎん事業創造キャピタルは26日、奥州市前沢区本杉に工場を構えるフアーメンステーション（本社東京都港区、酒井里奈代表取締役）に「岩手新事業創造フアンド」を投資すると発表した。フアーメンステーションはコメなどを原料にした高付加価値のエタノールや飼料、化粧品原料などを製造して収益性の高い地域循環事業を展開している。今後、設備増設などを計画しており、成長が期待できることか

ら同キャピタルが出資を決定した。同キャピタルは岩手銀行や学校法人龍澤学園、社・本郷税理士法人、事業創造キャピタルなどが共同出資して2015年6月に設立。起業や創業支援に向けたベンチャーキャピタル業務を中心に10億円規模のフアンドをつくり、県内に拠点を置く起業家らに投資している。女性起業家への同フアンド投資は今回が初めて。



願い事を書いた短冊をササ竹に付ける親子

うといいな

JR盛岡駅に
このうちわんロードには、用意された短冊とペンが書き記されており、駅利用者には夏の訪れを感じさせている。展示は7月7日まで。



「いや、いいアイデアだと思う」
感心した。なるほど、毎回同じことを答えるのには飽きる。麻有は案外、認知症老人の扱いに慣れているとみた。
「広島はどんなところ？」
母が聞く。
「広島ねえ。広島は牡蠣がおいしいです。あとみじ饅頭も。行ったことないですか、お母さん？」
麻有が今度は母に質問する。と、
「忘れちゃった、ふふ」
軽く肩をすくめて、またトコトコと台所を出て行った。
「いいですねえ、お母さん、明るくて」
麻有が感心したように言うので、
「その点だけは助かるよね」
「そうだ、そろそろ試食してみます？」
麻有が冷蔵庫からガラス瓶を取り出した。
「あ、牡蠣？ そろそろ味が染み込んだかしら。最初のうちはイライラしたり機嫌悪くなったりしてたけど、最近、すっかりいい調子なのよね。だって、亭主が死んだこともすく忘れちゃうんだ

ことことことこと
阿川佐和子・作
土橋とし子・画

第四章 父とお別れ（二十一）